



2023年 12月

株主通信 セコム株式会社

第63期中間報告書 [2023年4月1日から
2023年9月30日まで]



Top Message

確かな「安全・安心」を お届けすることで、会社の成長と 社会の持続的な発展を目指す

多様化する社会ニーズにお応えするサービスと、「セコムグループ Road Map 2027」における成長投資について、社長の尾関一郎からご説明いたします。

セコム株式会社 代表取締役社長 **尾関 一郎**



多様化する社会ニーズにお応えする サービスについて

社会環境の変化に伴いお客様のニーズが多様化するなか、セコムは先端技術や創業より培ってきたノウハウを活用して「安全・安心」で「快適・便利」なサービスをお届けしています。

7月には、システムセキュリティ「AZ」のカメラ映像を活用して店舗・施設の運営を支援するウェブサービス「dot-i」（ドットアイ）を発売しました。今後もオープンなクラウドサービスを「AZ」と連携させ、セコムのサービスをお客様の事業運営を支えるビジネスインフラへと進化させていきます。

10月には、日本初となる、AIを活用して巡回・侵入監視を行う「セコムドローンXX（ダブルエックス）」を発表しました。多様な分野で普及が見込まれるドローンを警備に利用して省人化・効率化を実現するだけでなく、公共施設の点検業務や災害時の安全確認、河川の見回りなど、セキュリティにとどまらないさまざまな用途での活用を目指していきます。

また、5月に開催された「G7 広島サミット」では、セコムのセキュ

リティシステムを警察に提供し、世界の注目が集まった国際会議の安全な運営に貢献しました。

「セコムグループ Road Map 2027」における 成長投資について

「セコムグループ 2030年ビジョン」の実現に向けて5月に策定した「セコムグループ Road Map 2027」では、「見守り・セキュリティ」「海外」「BPO・ICT」「生産性向上」「ステークホルダー」の5つを重点施策に掲げ、さまざまな取り組みを推進しています。

5月に行った米国のEagle Eye Networks社とBrivo社への出資もその一環で、海外事業を強化するとともに、両社が持つ先端テクノロジーや独自のソリューションを活用し、セキュリティ事業のDX推進・生産性の向上を図っていきます。

また、お客様に「安全・安心」をもたらすサービスを提供するうえで、生き活きと働く多様な人財が最大の資源であり成長の原動力であると考え、人財の確保・育成に継続投資し、多様性拡大、well-being向上、能力の向上・開花のための環境整備に取り組んでいます。

今後も、各事業の強化やサービス価値の最大化に寄与する成長投資を積極的に展開し、すべてのステークホルダーから選ばれる会社づくりを目指していきます。

最後に、株主の皆様へ

社会課題やリスクが多様化・深刻化する今日において、お客様のお困りごとは多岐にわたっています。こうした状況下でセコムならではの確かな「安全・安心」をお届けすることが、会社の成長を加速させるとともに、社会の持続的な発展に寄与するものと考えています。

これからも、「あらゆる不安のない社会の実現」に向けて邁進してまいりますので、私たちセコムグループにご期待・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日本初、AIを活用して巡回・侵入監視を行う セキュリティドローン「セコムドローンXX」を開発

セコムは10月、日本初となる、AIを活用して巡回・侵入監視を行うセキュリティドローン「セコムドローンXX（ダブルエックス）」を発表しまし



「セコムドローンXX」の機体

た。発売は2024年春を予定しています。

セコムは2015年12月に、敷地内に侵入した不審者を自律飛行で追跡し、その映像をセコムに送信して迅速・的確な対応につなげる、民間防犯用として世界初の「セコムドローン」を実用化。約8年もの間、運用実績・ノウハウを積み上げてきました。

今般開発した「セコムドローンXX」は、その「セコムドローン」の機能をさらに進化させたもので、新たに人や車両を検知する画像AIを搭載し、監視員が不審者・不審車両と判断して指定した物体を自動で追跡・撮影します。

従来の「セコムドローン」と比較して、飛行時間は約2倍、最高速度は約4倍、飛行範囲は約50倍に向上し、最大で半径約6kmのエリアを警備することが可能となりました。



AIを活用して警備を提供

耐風性能も上がり、悪天候下でも利用できます。

新たに開発した格納庫では、ドローンの格納・離着陸・バッテリー

交換／充電、機体のセルフチェックを全自動で行います。バッテリーを自動で交換できるため、短時間で次の飛行を実施できます。

「セコムドローンXX」は、これらの特長を活かし、あらかじめ決められたルートを飛行し安全確認を行う「巡回監視」、敷地内に設置してあるセンサーや監視カメラが検知した侵入者を追跡する「侵入監視」を提供します。また、公共施設の点検業務や災害時の安全確認、河川の見回りなど、セキュリティにとどまらず、さまざまな用途に活用いただくことが可能です*。

10月12日(木)には、千葉県浦安市で記者発表会を開催し、実機によるデモンストレーションも実施。当日は多くの報道関係者が訪れ、テレビ・新聞・ウェブニュースで報じられるなど高い注目を集めました。

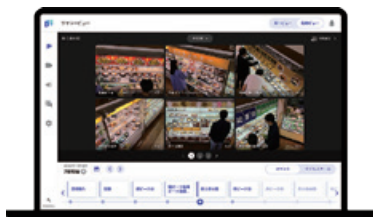
*航空法に基づく飛行許可・承認が必要



記者発表会では格納庫を模したボックスを使い「セコムドローンXX」を発表

セキュリティカメラの映像を業務効率化に活用 店舗管理向けウェブサービス「dot-i」を発売

セコムは7月、システムセキュリティ「AZ」のカメラ映像を活用し、店舗や施設の運営を支援するウェブサービス



複数店舗や無人店舗の運営に活用できる「dot-i」

「dot-i」(ドットアイ)を発売しました。

「dot-i」は、セコムと(株)ディー・エヌ・エーが共同開発したウェブアプリケーションによるサービスです。パソコン・タブレット・スマートフォンからカメラ映像を確認でき、店舗や施設の効率的な運営やサービス品質の向上に役立てることができます。

「サマリービュー」機能では、カメラ映像を一定間隔でクラウドに記録、複数店舗の映像をまとめて表示して比較することができるほか、「業務指示・申し送り」機能では、店舗スタッフへの業務指示や返品などの申し送り事項をスタッフ間で共有するコミュニケーションツールとしても利用できます。さらに、「ライブモニター」機能でリアルタイム映像も確認が可能です。

セコムは5月に発表した「セコムグループ Road Map 2027」のなかで、オープンなクラウドサービスと「AZ」を連携し、お客様の事業運営を支えるアプリケーション開発に取り組んでいくことを表明しました。今般、これらのクラウドサービスの商品ラインを「SECOM Business SaaS^{*}」(セコムビジネスサース)と定め、「dot-i」はその商品ラインの第一弾となります。

^{*}SaaS (Software as a Service) : クラウド上のソフトウェアをインターネットを通じて利用するサービス

「G7 広島サミット」に セコムのセキュリティシステムを提供

セコムは5月に広島で開催された国際会議「G7 広島サミット」の安全な開催のため、「セコム気球」と「セコム3Dセキュリティプランニング」を警察に提供しました。

「セコム気球」は、サミット会場である「グランドプリンスホテル広島」付近および、各国首脳・関係者が訪問した国宝・世界遺産「厳島神社」が所在する宮島の上空に係留。気球に搭載されたカメラで上空から俯瞰警戒を行いました。

また、警備計画を検討する際の支援ツールの実証実験として、高精度な3次元立体地図によるセキュリティプランニングシステム「セコム3Dセキュリティプランニング（クラウド版）」を提供しました。

「セコム3Dセキュリティプランニング」は、「G7 伊勢志摩サミット」でも使



会場周辺の上空に係留された「セコム気球」

用された、セコムグループで地理空間情報サービス事業を担う(株)パスコによる高精度な3次元立体地図データを活用したセキュリティプランニングシステムです。今回は開発中のクラウド版を提供し、警備計画の検討に活用いただきました。

今後もセコムは、独自の技術力、開発力を活かしたセキュリティシステムにより、国際的なイベントの「安全・安心」な運営に貢献していきます。

パスコがタイのGISTDAと基本合意書を締結 地理空間情報利用の高度化を目指す事業創出

セコムグループで地理空間情報サービス事業を担う(株)パスコは8月、タイ地理情報・宇宙技術開発機関(以下、GISTDA(ジスタ))と、タイ国内における地理空間情報の高度化に向けた空間情報事業の開発および共同プロモーションの検討協力に関する基本合意



パスコ本社で開催された締結式

書を締結しました。

パスコは、2003年にパスコタイを子会社化し、タイ政府事業も支援。GISTDAはタイの宇宙開発を行う政府機関であり、地球観測衛星事業に加え、地理空間情報

の利活用を推進する責任を担っています。

今回、地理空間情報サービスについて、現地での提供を目指すパスコとタイ国内での利活用を目指すGISTDAの方向性が一致し、基本合意書の締結に至りました。

パスコとGISTDAは、空間情報プラットフォームを活用した事業を検討するにあたり、パスコは保有する機材・技術と地理空間情報を活用したサービスのノウハウを提供し、GISTDAは空間情報プラットフォームの情報提供と開発後のサービス運営を担う予定です。

今後3年を目途として、衛星測位技術分野と地球観測衛星分野をテーマに、GISTDAが開発を進める空間情報プラットフォームを活用した事業創出の検討を進めていきます。

Eagle Eye Networks社とBrivo社の 第三者割当増資を引き受け

セコムは5月、米国の起業家Dean Drako氏が保有する世界的なクラウドセキュリティ企業で、北米を中心にSaaS事業を展開するEagle Eye Networks社とBrivo社の第三者割当増資を引き受けました。

海外市場における事業強化は、5月に策定した「セコムグループ Road Map 2027」における重要施策の1つであり、世界最大の市場で新技術の先行者となるケースの多い米国は、特に高い優先度で投資の検討を進めています。

Eagle Eye Networks社とBrivo社は、セキュリティ市場に関わる成長領域であるVSaaS^{※1}およびACaaS^{※2}における米国の代表的な企業で、両社は今回の出資を受けてAI分析機能の開発を強化し、グローバル事業の拡大を加速させていきます。

セコムは両社への出資や事業提携を通じ、米国やそのほかの海外市場で事業を拡大するとともに、両社の有する先端技術を活用してセコムのサービスやシステムのさらなる進化を目指していきます。



Eagle Eye Networks社はクラウド上でAI分析できる監視システムを提供

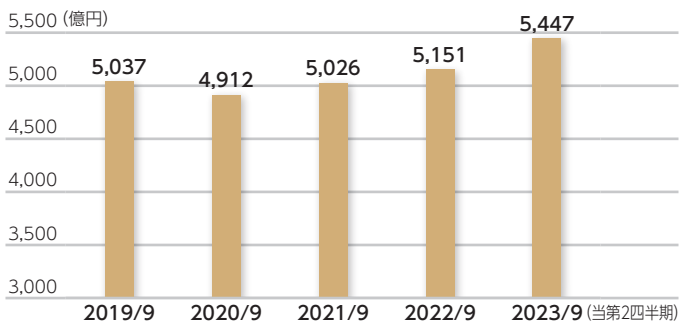
※1 VSaaS (Video Surveillance as a Service) : 監視カメラ映像を、クラウド上からアクセス・管理・解析するサービス

※2 ACaaS (Access Control as a Service) : 物件のアクセスコントロール端末を、クラウド上から制御・管理するサービス

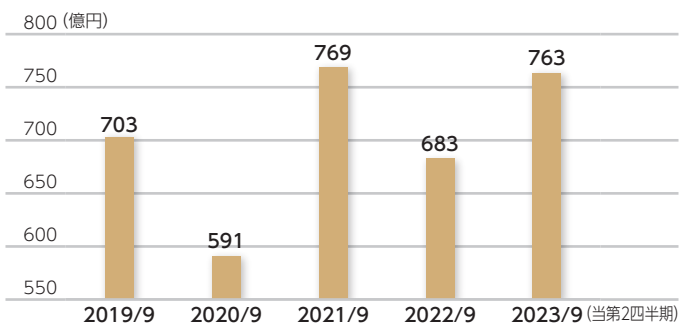
Review

連結決算 業績ハイライト

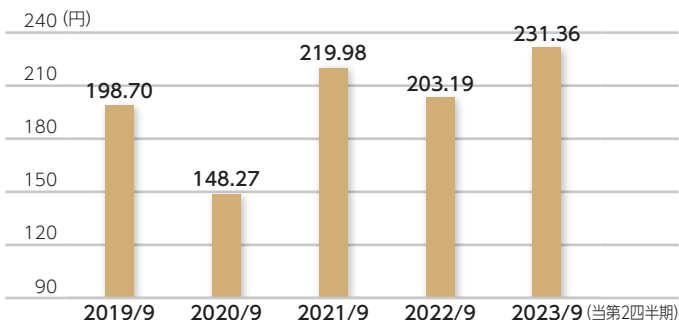
● 売上高



● 経常利益

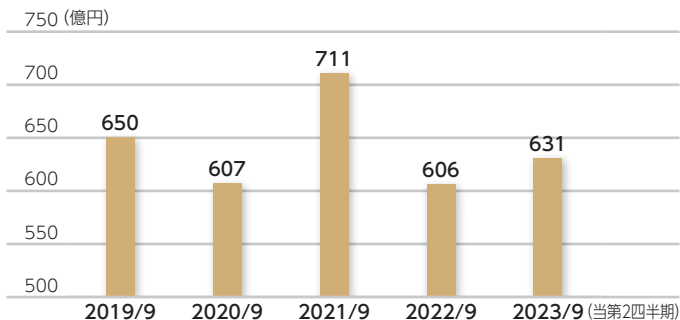


● 1株当たり四半期純利益

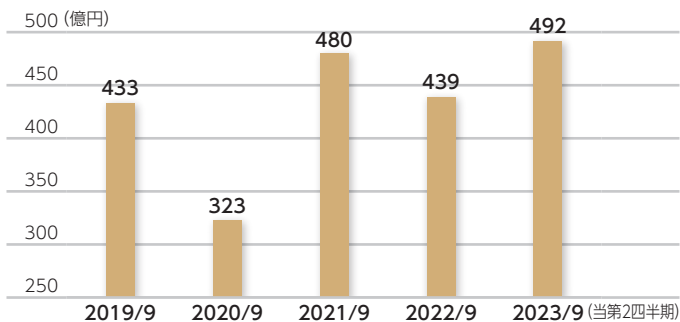


— 第2四半期累計

● 営業利益



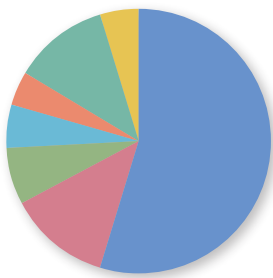
● 親会社株主に帰属する四半期純利益



● 事業別売上高内訳 2023/9 (当第2四半期)

(億円)

● セキュリティサービス事業	2,990	54.9%
● 防災事業	675	12.4%
● メディカルサービス事業	389	7.1%
● 保険事業	285	5.3%
● 地理空間情報サービス事業	223	4.1%
● BPO・ICT事業	626	11.5%
● その他事業	257	4.7%



Review

● 営業の概況（連結）

当第2四半期連結累計期間（2023年4月1日～2023年9月30日、以下、「当第2四半期」）の日本経済は、雇用・所得環境が改善するもとで、設備投資や個人消費などで回復の動きが見られました。一方、物価上昇や海外経済情勢、さらには金融・為替市場の動向などに留意が必要な状況が続きました。

このような状況において、当社グループは、「安全・安心・快適・便利」な社会を実現する「社会システム産業」の構築を目指し、「セコムグループ2030年ビジョン」の実現に取り組んでいます。また、2023年5月には、ビジョン実現に向けて今後の目指すべき方向性をより明確化し、成長をさらに確かなものとするために「セコムグループ Road Map 2027」を策定し、各種取り組みを積極的に展開しています。

当第2四半期も、事業所向け・家庭向けのオンライン・セキュリティシステムの販売を積極的に推進してきました。事業所向けでは、システムセキュリティ「AZ」「AZ-Air」の拡販に加え、7月には、これら「AZ」シリーズをオープンなクラウドサービスと連携し、お客様の事業運営を支える取り組みの第一弾として、セキュリティシステムのカメラ映像を活用して店舗や施設の運営を支援するウェブサービス「dot-i」（ドットアイ）の販売を開始しました。また、家庭向けには、「セコム・ホームセキュリティ」のオプションサービスとして配信している、「Apple Watch」の転倒検出機能と連携したセコムへの緊急通報と、日常の健康管理ができる「YORISOS」（よりそす）アプリの利用拡大を図るなど、さまざまな取り組みを通じて、ますます多様化・高度化するお客様の安心ニーズに対し、きめ細やかな切れ目のないサービスを提供することに努めました。

これらの結果、当第2四半期における売上高は5,447億円（前年同期比5.8%増加）、営業利益は631億円（同4.2%増加）、経常利益は763億円（同11.7%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は492億円（同12.0%増加）で、売上高および親会社株主に帰属する四半期純利益は過去最高を更新しました。

Profile

● 会社概要



セコム株式会社

設立 …… 1962年7月7日

所在地 …… 〒150-0001

東京都渋谷区神宮前1-5-1

資本金 …… 664億円

- グループ総会社数 (セコム(株)含む) …… 175社
連結子会社数 …… 158社
持分法適用関連会社数 …… 16社
- グループ総社員数 …… 71,177名
(2023年3月31日現在)

取締役 (2023年11月30日現在)

代表取締役会長	中山泰男
代表取締役社長	尾関一郎
専務取締役	吉田保幸
常務取締役	布施達朗
取締役	栗原達司
取締役 (社外)	廣瀬篁治*
取締役 (社外)	渡邊 元*
取締役 (社外)	原 美里*

監査役 (2023年11月30日現在)

監査役 (常勤)	伊東孝之
監査役 (常勤)	辻 康弘
監査役 (社外)	加藤秀樹*
監査役 (社外)	安田 信*
監査役 (社外)	田中節夫*

*印の6名を独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

執行体制 (2023年11月30日現在)

● 取締役

代表取締役会長	中山泰男
代表取締役社長	尾関一郎
専務取締役	吉田保幸
常務取締役	布施達朗
取締役	栗原達司

● 執行役員

常務執行役員	古川顕一
常務執行役員	泉田達也
常務執行役員	上田 理
常務執行役員	山中善紀
常務執行役員	杉本陽一
常務執行役員	福満純幸
常務執行役員	永井 修
常務執行役員	佐藤貞宏
執行役員	進藤健輔
執行役員	桑原靖文

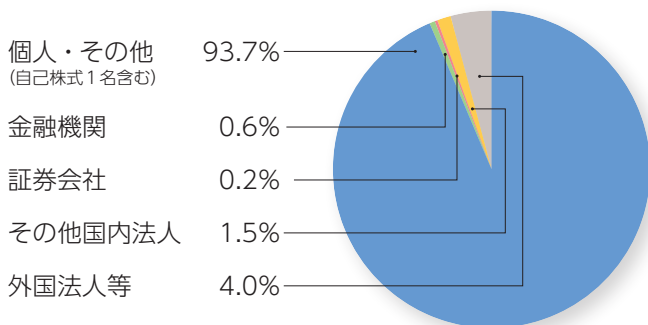
執行役員	福岡規行
執行役員	赤木 猛
執行役員	長尾誠也
執行役員	植松則行
執行役員	小松 淳
執行役員	千田岳彦
執行役員	中田貴士
執行役員	森田通義
執行役員	稲葉 誠
執行役員	杉本敏範
執行役員	荒木 総
執行役員	滝沢 聡
執行役員	澤本 泉
執行役員	久保田顕
執行役員	内藤昌彦
執行役員	喜連新治
執行役員	竹澤 稔
執行役員	寺井康悦

Information

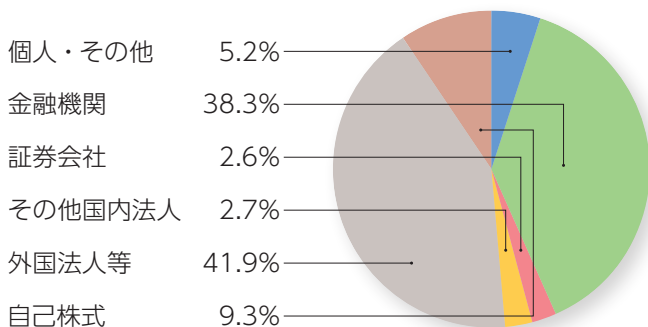
● 株式の状況 (2023年9月30日現在)

1. 発行可能株式総数 …………… 900,000,000株
2. 発行済株式の総数 …………… 233,299,898株
3. 単元株式数 …………… 100株
4. 株主数 …………… 20,881名
5. 所有者別状況

● 株主数比率



● 株式数比率



● 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 証券コード 9735
- 公告方法 電子公告
<https://www.secom.co.jp/koukoku/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
- 株主名簿管理人 特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

● 株式に関する各種お手続きについて

- 証券会社に口座がある株主様は… ▶ 口座がある証券会社へお問い合わせください。
- 特別口座に記録されている株式の株主様は… ▶ 下記の特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行(株)へお問い合わせください。
- 未払い配当金のお支払いに関するお問い合わせは… ▶ 下記の株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行(株)で承ります。
- 株主総会資料の電子提供制度・書面交付請求に関するお問い合わせは… ▶ 下記の三菱UFJ信託銀行(株)、または口座がある証券会社へお問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部


ご郵送先

〒137-8081

新東京郵便局私書箱第29号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式のお手続きに関する
お問い合わせ

 **0120-232-711**

[平日9:00~17:00]

信頼される安心を、社会へ。

SECOM

会えない。
だけど、
見守りたい。

離れて暮らす父や母に、なかなか会えない今だから。
毎日の暮らしを、スマホでそっと見守る。
もしもの時は、私に代わってすぐ駆けつけてくれる。
その安心は、ずっと見守ってくれた親へのひとつの恩返しでも
あると思うのです。いつまでも元気で過ごしてほしいから、
そばにいたような安心を。あなたを思う、その人に。

セコム、していますか？

☎ 0120-756-892 (9時～18時 年末年始を除く)



セコム 検索

〈表紙写真のご説明〉

日本初となる、AIを活用して巡回・侵入監視を行うセキュリティドローン「セコムドローンXX (ダブルエックス)」



本誌は環境に配慮し、FSC® 認証紙および植物性インキを使用しています。

ユニバーサルデザイン (UD) の考え方に
基づき、より多くの人へ適切に情報を伝え
られるよう配慮した見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。

株主通信 (No. 143) 2023年12月発行 発行/セコム株式会社 東京都渋谷区神宮前1-5-1 〒150-0001 電話 (03) 5775-8100 FAX (03) 5775-8902